



◆ 岩永 義仁 議員

問 町が全額負担しながら、事業者が国県へ補助金を申請する行為は、事実上の名義借りで、補助金に関する法令に抵触する可能性があったという認識は。

答 事業者とは認識の違いがあった。議会へは予算計上の段階で説明予定だった。

問 行政文書での事業者への約束と議会への説明が違っていた。

答 建設費用の負担割合を巡り、町と運営事業者との軌轢の上撤退し、新施設の建設が滞っている。養北認定こども園(仮)は現施設において平成30年度より開園することが決まっている。

答 新施設での開園のため、少しでも早く建設したい。将来的に運営に含みを持たせた設計を検討したい。

問 病児・病後児保育、子育て支援センターの設置を取り止めるのは、養老町の保育・子育て環境の後退となるのでは。

答 抵触しないと認識。

問 行政の長として町長は一連の騒動の責任を取らないのか。

答 一日も早く建設し開園することを責任としたい。

答 熟議の上、丁寧な説明をしていく。

問 新施設建設への進め方は。



平成30年度からこども園化決定の養北保育園

町長 熟議の上、丁寧な説明を

養北こども園遅延問題は



◆ 林 輝見 議員

問 小中学校の通学路沿いには危険度の高い水路が存在し、児童・生徒が水難に遭う事例が多く、安全柵(ガードパイプ)の設置が必要である。交通量の多い道路は必要幅員を確保し、縁石による歩道の分

答 「養老町通学路交通安全全プログラム」に基づき、町内の学校を3グループに分け、それぞれ3年に1回、学校・各道路管理者・警察・地元住民・PTA・教育委員会など関係者により、通学路危険箇所の合同点検確認を実施している。関係機関と連携して危険度の高いところから順次、対策を実施し、通学路の安全確保に努めていく。



改修の通学路(栗笠地内)

課長 危険度で対策を実施

通学路の安全確保を

離を。通学路に設置されている横断歩道の待機場所が充分でない箇所が多く、地権者の協力を得て安全性を高める方策を。調査を継続的に実施し、危険度の高い場所から計画的な対策が重要であるが。

学校グラウンドの排水は

教育長 降雨後半日で使用可能

問 学校のグラウンドでは児童・生徒に限らず地区住民も利用しているが、雨が降ったあとの排水状況に各学校に大きな差がある。経年劣化による効率の低下とされるが、現状調査と計画的な改修対策は。

答 表層の土と中間層の土が経年劣化により混ざり、部分的に水が浸透しにくい施設もあるが、どの学校も降雨後半日程度で使用可能である。グラウンドの改修は持続効果とかかる費用は比例する。公共施設等総合管理計画と併せて対応をする。

問 グラウンドの目詰まりが影響した雑草の増加が目につく。児童生徒の安全性を考慮すると、除草剤の散布による処理は好ましくないが、除去対策は。

答 手や草刈り機などで除草作業をしている。これまでの方法を継続しながら、一層、子ども達や保護者・地域の皆様が一体となり、学校施設全般に環境整備を図りたい。

高齢世代に活躍の場を

課長 地域活動参加を促したい

問 急激な人口減少による地域の担い手不足解消のため、アクティブシニア層を取り込みたい。そのためのかかけ作りができる行政手続の新団体を設立することを提案する。対象が高齢層のため煩わしい運営の部分は行政が担う事にかかわる。

答 行政手続はアクティブシニアの価値観の多様性や自主性という良い点が損なわれる可能性はある。現時点で有効な方策はないが、今後何らかの形で地域活動等の発表の場を用意したい。当面は町老人クラブ連合会等の既存団体の活動を充実させることで、高齢者の地域活動参加を促進したい。